



2014～15 年度
国際ロータリー会長

ゲイリー C. K. ホアン

Weekly Report Niigata



2014～15 年度
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀樹



2014～15 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 6 月第 4 例会 (2015.6.23) No.3092

(1) ロータリーソング「それでこそロータリー」斉唱

(2) 高橋 秀樹会長挨拶

来週は納会で夜例会ですので、来週の会長挨拶は引継等の内容になります。したがって、通常の会長挨拶としては本日のお話が最後になります。

さて、この最後の会長挨拶で取り上げたいのは、我々が毎回必ず最初に歌うロータリーソングについてであります。なぜ我々は歌うのでしょうか。山本直前会長が『ロータリーこぼれ話』の 12～13 頁で記しておられるように、理由は一つだけではないでしょう。

一つにはロータリークラブの理念を簡潔に、覚えやすくする、ということがあるでしょう。歌の歌詞は一旦覚えてしまうと、なかなか忘れません。小学校のときに勉強した国語の教科書の文章を暗記している人は滅多にいないでしょうが、子どもの頃覚えた歌はなぜか歌詞を忘れないものです。「我等の生業」、「奉仕の理想」、「手に手つないで」、「それでこそロータリー」はそれぞれロータリーの理念を簡潔に憶えやすくしてくれます。

組織の理念を歌によって表現し、メンバーの心の中に定着させるという手法は、世界中のいたるところで、古くから活用されてきた手法です。西洋の歴史を繙けば、その最も端的な事例の一つはキリスト教の教会や修道院で歌われる聖歌の類であります。19 世紀まではカトリックのキリスト教では、一日に 8 回の聖務日課が定められており、一日に幾度となく歌を歌いました。

そして、ロータリーソングのもう一つの役割は、立場や考え方の異なる会員同士を融和させ、親睦を深めるということがあります。よく知られているエピソードですが、ロータリークラブができて間もないころ、例会が沈滞したり、奉仕強調派と親睦派が対立したりしたときに、ハリ・ラグルスが歌を歌うことを提案したのが始まりと言われていいます。

「音楽」というと何となくオーケストラの堅苦しい雰囲気を感じてしまいますが、古来、リラックスした親睦の場には必ず歌がありました。例えば、日本の平安時代、和歌は朗読するものではなく、場を共にする者たちで合唱するものであったことは、10 月 28 日の月見例会の際の会長挨拶でお話した通り

です。西洋文明でも、古い事例であれば、古代エジプトの宴席で歌われた「竖琴弾きの歌」の歌詞が何種類か現存していますし、古代ギリシアでは、リラ(竖琴の一種)を掻き鳴らす歌うたいが活躍して宴席を盛り上げました。中世ヨーロッパになると、の竖琴弾き、トルバドール、トルヴェールと呼ばれる吟遊詩人たちが引っ張りだこでした。近世ヨーロッパになっても、流離(さすらい)の竖琴弾きは活躍し続けており、各地の名士たちはパトロンとして彼らを支援することに熱心でした。古来より、人々が胸襟を開いて集うところ、何らかの歌声が鳴り響くことが多かったのです。

ここでちょっと話が変わりますが、私はこの一年間会長という立場でみなさんと接して参りまして、それで改めて感じたことの一つは、想像以上に会員の間で各種の物事についての御意見や見解が様々で、しかも時としてそこから一筋縄ではいかない縫れが生じるものだという事です。会長という聞こえはいいですが、要するにクラブの雑用係ないし世話役でありますから、その立場からしますと、互いにかち合うご意見が寄せられたり、あるいは相談事や問題の解決を求められたりいたしまして、そのためにそれなりの時間と労力を費やすことになり、小さからぬ困惑の種となります。しかし、それはそれでいいのだと思います。

ロータリークラブは異業種の集まりです。ですから、意見や立場が様々なのは当然であって、見解が対立しないほうが不自然です。様々な意見や立場に接して、自らに無いものを吸収することこそ、我々が集う理由の一つである筈です。ある意味では、ロータリークラブの中の立場の違いや意見の対立は一種の「財産」であります。それはクラブの豊かさを示すものであり、無理やり解消してしまうべきものではないように思います。

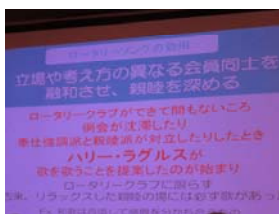
しかし、だからと言って、意見がバラバラだったり食い違ったりしている状態で、ただ一緒にいるだけ、というもおかしな話です。ここにこそ我々が声をそろえて歌う意味があるのではないのでしょうか。会歌を歌うとき、私たちはそれぞれの見解の違いや意見の対立を無理やり曲げたり消したりする必要はありません。それでもクラブの仲間と共に声を合わせて同じ歌を歌うことができます。

また、我々是一个のクラブに集っているとはいえ、多くの委員会に分かれてそれぞれの異なる役割を果たしています。そして委員会の中でも、委員長と委員とで役割が異なります。そう

してみますと、皆で等しく行う活動というのは、実はなかなかないので。その中で、会歌の斉唱だけは、クラブの役割に関係なく、皆が同じ立場で歌います。よく考えてみると、会員全員が等しく参加するクラブ活動は他に無いのではないのでしょうか。

つまり、自分の信じるところをそのまま胸に抱きながら、しかも全員が等しく参加するクラブ活動、これがロータリーソング斉唱であり、そのかけがえのない意義だと思うのです。異業種交流会はロータリークラブの他にもいくらでもあります、これほど良く唄う団体もないのではないのでしょうか。いい年をした大人が、お酒の席でもないのに平日の昼間から皆で揃って歌うというのは、ちょっと気恥ずかしいところがないでもないですが、ロータリーソングの歌声がこれからも末永くイタリア軒に鳴り響いてほしいと思います。

以上をもちまして、私の通常例会の会長挨拶は締めとさせて頂きます。一年間拙い話にお付き合い頂き、ありがとうございました。



(3) 竹石松次会長エレクト著

「誇りたかき新潟の52人」贈呈にあたりお話

(4) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表

樋熊 紀雄君

米山奨学会寄付発表(宇尾野 隆委員)

徳永 昭輝君

青少年育成基金寄付発表(小林 敬直副委員長)

田村貫次郎

(5) ニコニコボックス紹介

・坂本 務君 1年間、時には冷や汗をかき、時には胃が痛みながらも担当したプログラム委員長の仕事も、今日の早川さんの卓話で仕事納めとなります。この1年間、会員8名を含む、のべ38人の方に、貴重なお話しをいただきありがとうございました。お世話になった、さまざまな人たちのご協力とご配慮に感謝します。

(6) 幹事報告(安藤 栄寿幹事)

6月28日(日)チャリティーゴルフコンペが紫雲ゴルフクラブに於いて開催されます。開会式 9:15分、懇親会はイタリア軒です。

(7) 卓話

美しき誤解「ベンチャーを取材してわかること」

ひとりシンクタンク「2010」代表 早川 和宏氏



(8) 本日の出席率 68.89%

会員数94名(出席免除会員 7名)

出席者62名(出席免除会員3名を含む)

(2週間前メーク後 93.62%)

6月30日の例会予定

納会夜例会 17時30分開会 鍋茶屋

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>